



第 1196 回例会報告

平成 22 年 10 月 21 日(木) 小雨

会長挨拶

会長 長崎政直

閉塞感そして憂鬱

会長挨拶ですが、背伸びの挨拶は、結構大変です。そろそろネタ切れで、いよいよ行き詰ってきています。

今日は、私が最近感じている閉塞感・憂鬱について、お話ししようと思います。

人類の対立・衝突は第二次世界大戦以降、長らく続いた「イデオロギーの対立：東西の対立」からベルリンの壁の崩壊やソビエト連邦の崩壊を経て、経済のグローバル化が進み、南北問題を含みながらも世界は一つになりそうでした。ところがハンチントンが言う「文明の衝突」が露になり、第二次イラク戦争に代表される「キリスト文明」対「イスラム文明」というあらたな衝突が出現しました。

2年前、バラク・オバマが“change”“Yes We Can”のキャッチコピーで、アメリカ合衆国の大統領に就任しました。人種を超えた黒人大統領の出現は、その文明の衝突の解消への足がかりかと思わせたものでした。オバマのチェコスロバキア・プラハでの「核無き社会」への呼びかけは、まさに、そうした人類の平和への一歩と思わせるものでした。それ故の2009年オバマのノーベル平和賞授章だったと思うのです。

しかし、中間選挙を迎えたアメリカは、オバマの民主党の劣勢を伝えています。それは、失業者が10%もいて、経済の立ち直りが進まないことが原因のようです。あれほどオバマ支持で熱狂したアメリカ人達はどこへ行ってしまったのだろうかと驚くばかりです。

また、リーマン破綻後の世界経済は、直後、世界協調での対策が採られはしましたが、昨今の国際通貨危機では、ナショナリズム先行で、通貨安競争が進み、協調的対策がなかなか採られず、日本の孤立化が目だっています。それに中国の人民元は、据え置かれたまま、中国優位に進行しています。

加えて、中国の膨張策・覇権主義が尖閣列島に代表されるように目立ってきています。

それは、日本が、日清戦争以後、中国を蔑視してき

たおごりへの逆襲かもしれません。

いずれにもせよ、現状は、「イデオロギーの対立」「文明の衝突」以前の「ナショナリズムの衝突」に逆戻りしているように見えます。国家規模の利己主義です。

アメリカにあるそうですが、地球滅亡時計が残り時間7分を刻々と刻んでいるのではと不安です。アメリカの、世界のロータリアンは、この現状をどう捉えているのでしょうか。

国内に目を転じますと、去年9月、民主党政権が誕生いたしました。永らくの自民政権に溜まった膿を出すという国民の選択でした。ところが、政権についた民主党ですが、膿を出し切れませんし、日本の困難を語り、国民とともに切り開いていこうという姿勢が見えません。その挙句の党内権力争いで、国民の期待を大きく裏切っているように見えます。野党も、同様に、この国の在るべき姿や将来を見通す論戦には程遠く、誰に政治を託すべきか、判断のしようがありません。さらに、地方自治においても、停滞、閉塞感が否めません。

内憂外患の感が強まって行く・・・一体光をどこに見つければ良いのか・・・誰が見つめるのか・・・私たちのロータリー活動は有効か、とか思い、考え出すと、ますます閉塞感が増し憂鬱になって行きます。

先週、「老いるということは、自然のことであり、経験や学習によって得た〈思慮〉〈理性〉〈見識〉といった「知」によって、十分に光り輝き、楽しく過ごすことのできる時期なのだ」などとお話ししながら、その一週間後、「老い」を感じている私です。

■ニコニコBOX

23名	24,000円
累計	453,000円
目標額	130万円
達成率	34.8%

■今週のことば

■出席報告

会員数	35名
出席対象	35名
出席者数	25名
出席率	71.4%
前回修正	82.8%

■次回のプログラム

11月4日
職業奉仕について
夜間例会



ともあれ、世界に明るい光を見出せるよう、みんなですっかり考え、行動して行くことだろうと思っています。

◇幹事報告◇

1. 以下の文書を受領いたしました。
 - ①ウィークリー(諏訪 RC)を受領しました。
 - ②信州大学山岳科学総合研究所 10/23(土)14 時開催『諏訪湖の水質浄化と地域振興を考える』講演会広報ビラ(全員に配布致しました。)
 - ③ライラ in 上田 参加協力礼状(上田六文銭 RC)が届きました。
 - ④7月29日～8月2日インターアクトクラブ海外研修(台湾)の報告書をあずみ野 RC より受領しました。
2. 連絡事項
 - ①蒲地会員が下諏訪商工会議所の次期監事に選出されました。無給の職業奉仕です。
 - ②11月12日～16日国際奉仕委員会担当にてセブ島を訪問します。贈呈する古着(Tシャツ・ポロシャツ)の回収を継続しますので御協力下さい。
 - ③11月6日～7日 RI2600 地区大会は乗用車の分乗にて参加致します。詳細は次回例会に資料配布致します。
 - ④本日第5回理事会が開催されました。決定内容は FAX にて送付致します。

1196回例会

「CLP 会則検討特別委員会 担当例会」卓話

委員長 三村昌暉

●CLP(クラブリーダーシッププラン)の歴史と導入の経緯

2000年9月にLPT:リーダーシップ・デベロップメント・トレーニング・リーダーシップ研修開発委員会が現在の常任委員会組織が多いと指摘。2001年手続要覧の推奨ロータリー細則で18委員会が推奨されていたが、18委員会推奨の組織というのは会員が70人以上の規模の会員数を想定した委員会組織であり、40名前後の日本の平均的会員数では委員会が多すぎて、一人が幾つもの委員会を掛け持ちしなければその組織を完全に埋める事が出来ない事から、僅か5常任委員会しか持たない新しいクラブの管理組織を推奨した。

2002年にはそのガイドラインを開発し、2003年にはこれをRI理事会で原則的に承認し試験的にやってみようという事になった。2003年から2004年にかけて6ヶ国18クラブによって試験的に採用され、効果が認められたので2007年1月CLPに基づく推奨クラブ細則として推奨されることになった。

●推奨されるクラブ細則による常設委員会

クラブ委員会は、四大奉仕部門に基づいた年次および長期的な目標を推進する責任を持つ。会長エレクト、会長および直前会長は、指導の継続と計画の引継ぎを確約するために、協力すべきである。一貫性を保持するため、実行可能であれば、委員会委員は同じ委員会に3年間留任されるべきである。会長エレクトは任期が始まる前に、委員会の空席を補填するために委員を任命し、委員会委員長を任命し、企画会議を設ける責務がある。委員長は委員会委員としての経験者を任命することが推奨される。

CLPが推奨する常設委員会の任命は次の通りである。

・会員増強委員会

この委員会は、会員の勧誘と退会防止に関する包括的な計画を立て、実施するものである。

・クラブ広報委員会

この委員会は、一般の人々にロータリーについての情報を提供し、クラブの奉仕プロジェクトと奉仕活動を推進する計画を立て、実施するものである。

・クラブ管理運営委員会

この委員会はクラブの効果的な運営に関連する活動を実施するものである。

・奉仕プロジェクト委員会

この委員会は、地元地域社会および他国の地域社会におけるニーズに応える教育的、人道のおよび職業的プロジェクトを企画し、実施するものである。

・ロータリー財団委員会

この委員会は、資金的寄付とプログラムへの参加を通じてロータリー財団を支援する計画を立て、実施するものである。

その他、必要に応じて特別委員会を設けることができる。

※(注: 上記の委員会構成は、地区リーダーシップ・プランおよびクラブ・リーダーシップ・プランに沿ったものである。クラブは、その奉仕と親睦のニーズを満たすために必要な委員会を設置する裁量権をもつ。そのような任意の委員会の見本一覧表は、「クラブ委員長の手引き」に記載されている。クラブは必要に応じて、独自の委員会構成を考案することができる)。

●CLPの目的

CLPの目的は効果的なクラブの管理の枠組みを提供することによってクラブ強化を計る。

1. プロジェクト及び意思決定の継続性。
2. 意思決定及び目標設定の際のコンセンサスが得やすい。
3. クラブ指導者の活動の場の拡大と強化。

4. クラブ指導者の継続性。
5. クラブ活動における全クラブ会員の参加を図る。
 - ①.効果的なクラブの要素を取り組む長期計画を立案する。
 - ②.長期目標を支える年次目標を設定する。
 - 長期計画を単年度に落とし込む。長期計画と合致した年間目標を設定する。
 - ③.クラブ会員全員が最新情報を得ていること、クラブに参加していることを実感出来るようにする。
 - 計画策定に参加してもらいロータリーに関する情報を常に把握してもらうようにすること。
 - ④.クラブ内ならびに地区との意思疎通（情報伝達）を円滑に図る。
 - クラブ会長、理事会、委員会委員長、クラブ会員、地区ガバナー、ガバナー補佐および地区委員会の間に明確な意思疎通が計れるように確認する。
 - ⑤.年度から年度への指導力の継続性を保つ。
 - 将来の指導者育成を確実にする一貫した引き継ぎ計画をたて、概念を含め指導者の継続性を確保する。
 - ⑥.クラブの運営を反映するよう細則を独自に修正する。
 - クラブ委員会の構成とクラブ指導者の役割と責務を反映させるべく細則に修正を加える。
 - ⑦.定期的な親睦の機会を提供する。
 - 会員の親睦を更に深めるような機会を提供する。
 - ⑧.すべてのクラブ会員が積極的に参加する。
 - 全会員がクラブのプロジェクトや業務に活発に関し合うように計らう。
 - ⑨.定期的かつ首尾一貫した研修を提供する。
 - クラブ指導者が地区研修会の会合に出席する。
 - 新会員のための一貫したオリエンテーションを定期的実施する。
 - 現会員の為の継続的な教育の機会を提供する。

●CLP導入の効果

CLPを考案したLPT委員会：リーダーシップ研修開発委員会の元RI理事LPT委員長のロンバートン氏が「ザ・ロータリアン」のインタビュー記事で「CLPを導入することによってこんなことがチェックできますよ」と言っている。

1. 効果的なクラブ運営の為、どんな風に取り組んでいるか。
2. クラブ会長・理事・委員長・委員・地区役員とのコミュニケーションを図っているかどうか。
3. リーダーシップと奉仕活動の連続性。
4. クラブの現状を反映した細則になっているかどうか。
5. 動機付けのために親睦を活用しているか。
6. 全ての会員にロータリー教育を提供しているかなど、以上6つの項目が常々チェック出来る。

●理事と常任委員長の役割

従来細則だと四大奉仕の委員長は理事であるとい

う事であったが、CLPでは常任委員会の委員長は必ずしも理事ではなくても良いという事になっている。むしろ分けるといった考え方があるのかも知れない。RIによると、クラブ理事はクラブの管理をするために選出されたもので、委員会や予算案について客観的な意思決定を行うという機関であるという事になっている。それに対しクラブの常任委員会の委員長は決定したことを実行するものである。

●どのように取り組むか

CLPはロータリーの歴史において画期的なクラブ向上の一手段である。しかしこれを是が非でも採用するという必要はないと思うが、クラブ活性化のアイデアとしては一考の価値がある。良いところに気が付けばそこだけでも取り入れていけばよい。

以上が、CLPに関しての卓話であるが、30分という時間的な制約の中でまとめたものであり、説明不足や私の理解不足の点が多々有ると思う。諏訪湖ロータリークラブでは、3年前の第23期小林聖仁会長、蒲地整志幹事年度に、クラブの効率化のため、会員数にみ合った委員会数の簡素化を思い切って実施し、12委員会から6常任委員会へと現在に至り、地区ではCLPを取り入れたクラブと理解されている。

CLP会則検討特別委員会は現在の常任委員会構成を支持し、委員会の役割の再検討と、細則と現実の違い等の不備な点を整備し細則の変更を図る。

1. プログラム立案部門の再検討。
クラブ奉仕委員会や幹事にすべて負担させないよう検討する
2. 会員増強部門の再検討。
(会長・幹事が統括する特別委員会設置の検討)
3. 38事業の整理。
委員会が整理されたのに事業数は減っていない

上記の点を考慮し、現状の委員会任務に合うクラブ細則への変更。

CLP推奨クラブ細則を参考に現在のクラブ細則の不備な点を変更し、11月25日の第6回理事会に提出し承認されるよう準備する